

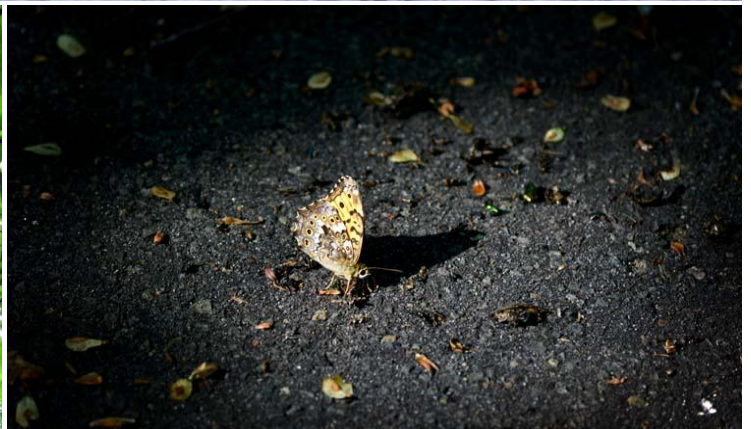
月刊 やちまなこ

2013.7.15 発行

No. 188

7 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原を覆っていた霧も消え、キタヨシの葉には硝子玉のような滴が輝いている。カッコウの鳴き声が聞こえる草原にタンチョウがヒナを連れて歩いていた。春の雪解けと大雨の影響で抱卵した巣が水没したものもあったが、この親子は無事に難を逃れたようだ。気温が上がった湿原にハシドイの花が咲き、湿原に短い夏の訪れを告げるようにほんのりとした香りが辺りに漂う。



コッタロ川と湿原のほとりから

157 7月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

暑中御見舞を申し上げます。

全山深緑の夏本番を迎え野鳥等の子育てもピークで賑わう中、剽軽な鳴き声の面白い“青鳩のオアオアオオ青嵐”や“ツツーツツ”の単調な連続音を透き通ったバリトンで腹底に迄響かせるツツドリが目覚まし音が筒抜けの昨今です。

中でも嬉しいハブニングは“コッチコイ”コールのキビタキが庭のカヤマツの枝に止まって呼びかけるのに応じてパチリ！一瞬の幸運と云えましょう。又、草刈り前に気付いたアオジの巣には4つの卵がうみつけれられており、ヒナの孵るのを待ち構えていたところ、“七夕や霧にアオジの巣立ち哉”で後の祭りでした。一方、夏草の勢力すさまじき大地の方々に広がる巨大蔭（葉径 60 cm 余り）の群落を隠れミノに孕み鹿等の出産ラッシュもそろそろ過ぎて“わらわらと鹿の子蠢く緑夜哉”。バンビ達の庭デビュー間近かと目をこらせば、なんと9日から蛍の乱舞が始まりました。例年になく早い記録です。

ところで今季山も畑も大豊作の兆に人も動物もホッとしているのではないのでしょうか。団栗や胡桃もたわわに実をつけ、自家種栽培 18 年の歩みの中、発芽率 100%の我実験農場は稀に見る作況で、天と地に感謝の祈りをささげる毎日、さらなる猛暑を期待したいですね。

さて、記録的な長期抱卵を 105 日目に断念した丹頂のコツ&タロは、あろうことか、季節はずれとも云える 6 月 30 日交尾に及んだではありませんか。二回目は早が翼を広げただけに終わりましたが（写真）、びっくりさせられました。も一つ驚かされたのは、今季双番 4 羽が一時に換羽したことで、しばらくは全員飛べません。因みに第 2 コツ&タロの 18 羽目の幼鳥が孵化後 45 日目に達した写真は、初列及び次列風切羽の生え始めをじっくり見極めることが出来ましょう。あと 2 月もすれば、親鳥と共に大空を目指すことでしょう。

このところ、川と湿原全体に響きわたるのは引きも切らぬカエルのラブソングで、夜を徹しての彼等の集合音は、まるで寄せ返す潮騒の絶えざる響みの真只中にいるようで、生命の息吹きを直に感じないではられません。



湿原の住人たち その148

トンボの楽園といわれる釧路湿原では、体長3cm前後のイトトンボたちが飛びまわるようになりました。今回は特徴がわかりやすい3種類を紹介します。湿原や林縁でトンボを観察してみませんか。

カラカネイトトンボ (写真上段)

釧路湿原では6月下旬から9月中旬に見られます。
華奢な体のイトトンボの中でも腹長20ミリと小さく、
体色を和名に冠していて、特異な唐金色が目印です。
眼後紋は無く、左右に連なる細い後頭条があります。
温根内木道の高層湿原が観察しやすいでしょう。



キタイトトンボ (写真中段)

釧路湿原では5月下旬から9月下旬に見られます。
日本では北海道特産種。この辺では普通に見られます。
眼後紋は洋梨形。
雄は腹部第2節にワイングラス形の斑紋があります。
温根内木道やコッタロ湿原の道路沿いでみかけます。



エゾイトトンボ (写真下段)

釧路湿原では6月上旬から8月中旬に見られます。
眼後紋はほぼ水滴形。
雄は腹部第2節にスペード形の斑紋があります。
サルボ展望台付近では、羽化後、葉の上で休む姿が見られます。
*出現期は『釧路湿原のトンボ』より引用



つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.69「新たな見学スポット誕生です。」

全体的に寒かった6月を過ぎ、7月上旬は塘路でも、気温20度後半が続く、夏らしい晴天の日が続きました。塘路に来られる観光客の数も増え始め、観光シーズンの到来を思わせます。

すでにお気づきの方もいらっしゃるかも知れませんが、国道391号線沿いに繁茂していた柳を除去し、サルボ展望台よりやや手前の歩道からも、塘路湖の景色を望む事ができるようになりました。これは塘路地域の人々が、環境保全と共に観光客の為にと関係機関に働きかけた為です。サルボ展望台まで行くのは、大変との方にはちょうど良いスポット。全体に広がる塘路湖の美しい景観を楽しめる良い場所です。

車から見る際は、ガードレールなどありませんので、安全な場所に止めてからゆっくりと、どうぞ～！

坪岡 始 (標茶町郷土館学芸員)



7・8月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

体験講座擦文土器を作ろう(標茶町郷土館共催)

〔日時〕 7/20 (土) 10:00~14:00

[定員・参加料] 15名、300円（材料費）

〔場所〕 塘路湖EMCレクチャールーム

〔持ち物〕 手拭きタオル、エプロン、昼食

葉脈のしおりを作ろう

〔日時〕 8/4 (土) 10:00~12:00

[定員・参加料] 8名、300円(材料費)

〔場所〕 塘路湖EMCレクチャールーム

「持ち物」手拭きタオル、エプロン

[illegible]

ホタルウィーク

〔日時〕 7/17 (水) ～ 21 (日) 19:00～20:30

夏の湿原花ハイク

〔日時〕 8/11（日） 10：00～12：00

ザリガニウォッチング

[日時] 8/18 (日) 10:00~12:00

[illegible]

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(6/16)コウリントンポポ (6/17)カラフトイバラ、エゾカンゾウ、サギスゲ、カキツバタ、アズキナシ、オニグルミの雌花、フランスギク (6/21)ハイキンポウゲ、ヒオウギアヤメ、イタヤカエデとハルニレのタネ、ホオノキ (6/22)フタマタイチゲ、ミツバウツギ、ミヤママタタビ、エゾオオヤマハコベ、ニワゼキショウ、マツヨイセンノウ (6/30)アオチドリ、エゾタツナミソウ、オオハナウド (7/6)シベリアシオガマ、エゾイヌゴマ、コウゾリナ、クサフジ、オニシモツケ、ホザキシモツケ、ナンテンハギ、エゾノカワラマツバ、エゾキヌタソウ (7/8)ハシドイ、エゾノヨロイグサ (7/9)メマツヨイグサ

【鳥】(6/17)コヨシキリ、カッコウ、ノビタキ (6/18)オジロワシ (6/21)アマツバメ、マガモ (6/22)タンチョウ
(6/30)ヨシガモ (7/6)センダイムシクイの親子、アオジ、ベニマシコ、アオバトの声

【その他】(6/17)キタキツネ、エゾシカ (6/22)ホンサナエ、サトキマダラヒカゲ、ミヤマカラスアゲハ、エゾハルゼミ (6/20)スズメバチの巣作り (6/23)ツバメシジミ、ヨツボシトンボ (6/30)エゾイトトンボ、シオカラトンボ、クロヒカゲ (7/6)キタイトンボ、フタスジチョウ、エゾシロチョウ (7/14)モンズズメバチ

■7月21日～8月18日まで、レクチャールームに於いてバードカービング展を開催します。平成24年度バードカービング講座参加者の「シマアオジ」の作品展です。入場無料。

■今年も夏期水曜開館を実施します。7/17、24、31、8/7、14は開館します。

◆日出・日入時間 7/15(3:57, 19:00). 7/31(4:12, 18:45). 8/14(4:27, 18:27)



ハシドイの花

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこつと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

開館時間 10：00～17：00（11月～3月は16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料